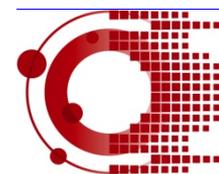


人文組織工学 A基礎理論

価値について



人文組織学会

タイトル

19世紀までの価値の測定

古代から価値は、社会基盤によって変化した。
社会基盤が固定したとき、経済、政治、社会、宗教、芸術、理論(知識)の6つの分野に分け、それぞれについての個人単位や組織単位で測定基準を設けた。6つの位置づけから、個人や組織の価値観を知ろうとしたのが、近年までの方法だった。

現代の価値

価値が多様化している。皮膚感覚で感じれる事柄から、虚像に対して感覚による疑似体験ができる。先進諸国、発展途上国、経済のレベルが一国で固定されず、良し悪しは別にして多用な現象を同時に見られるようになった。1つの地域で固定されていた時代から、移動の自由と情報多量の時代へ移って、価値観の計測は既存分野に分類できなくなった。

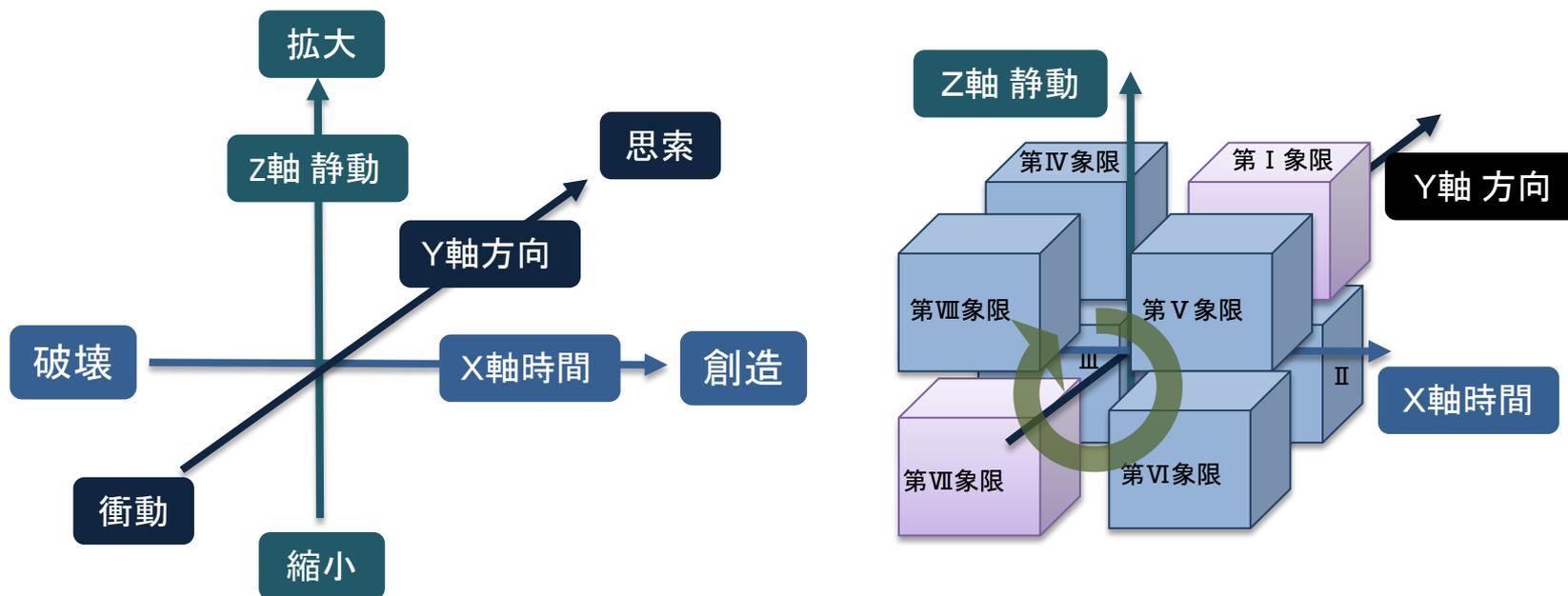
経済を基盤とする社会での、価値の原則を求め、価値変化を考える必要が出てきた。また、1個人も、特異な価値基準を合わせ持つ必要が高くなっている。自己実現、主張の自由と責任において、自らの成長を求める者にとってである。社会の価値が何であるかを探るのは難しくなり、固定できなくなった。どのような状態になったときに価値観が出現するかである。

言語分析での価値測定

言語分析における価値抽出は基準と枠組みを設けない。あるグループを引き出したとき、重点を置いている単語と単語が持つ意識数値に着目する。変化する価値である。

有効価値生成の位置

価値は押し付けられるものではなく、それぞれ個人が持つ。価値の位置がどこにあるかで、その価値の有効性が得られる。その象限位置によって、個人がもつ価値も、他と共有できる可能性が出てくる。



「価値を創る、価値を生み出す」と「価値の発見」がある。創造と発見の方向を思想の中心においた構造である。創造軸の正は創造で対極は破壊になり、3軸の中央(原点)は維持・安定を示す。

方向軸は価値生成を示す。正の方向を思索とし、合意形成ができる要因とした。

2つの価値区分と5つの基準

価値のレベルを同一基準で比較

絶対価値

普遍とされる価値

潜在価値

文化、風土によって制限される価値

習慣的価値

永年の生活習慣によって培われてきた価値

意識価値

自らの体験、知識と周辺と比較検証されて発生する価値

思索的価値

理想を中心にして現在が比較されて発生する価値、理想価値ではない。

発生起因の異なる価値観を比較

生理的価値

生命、存在に関わる価値

嗜好性価値

個人の好き嫌いに関わる価値

正統性価値

宗教上の制約と倫理、政治的統治、軍事力統治などにより制限されて起きる価値、主と従の関係で起こる。地域社会で異なる。

科学的価値

真実だと論証することによって起こる価値

真理的価値

未来にわたって正しいとされる哲学に関わる真理での価値

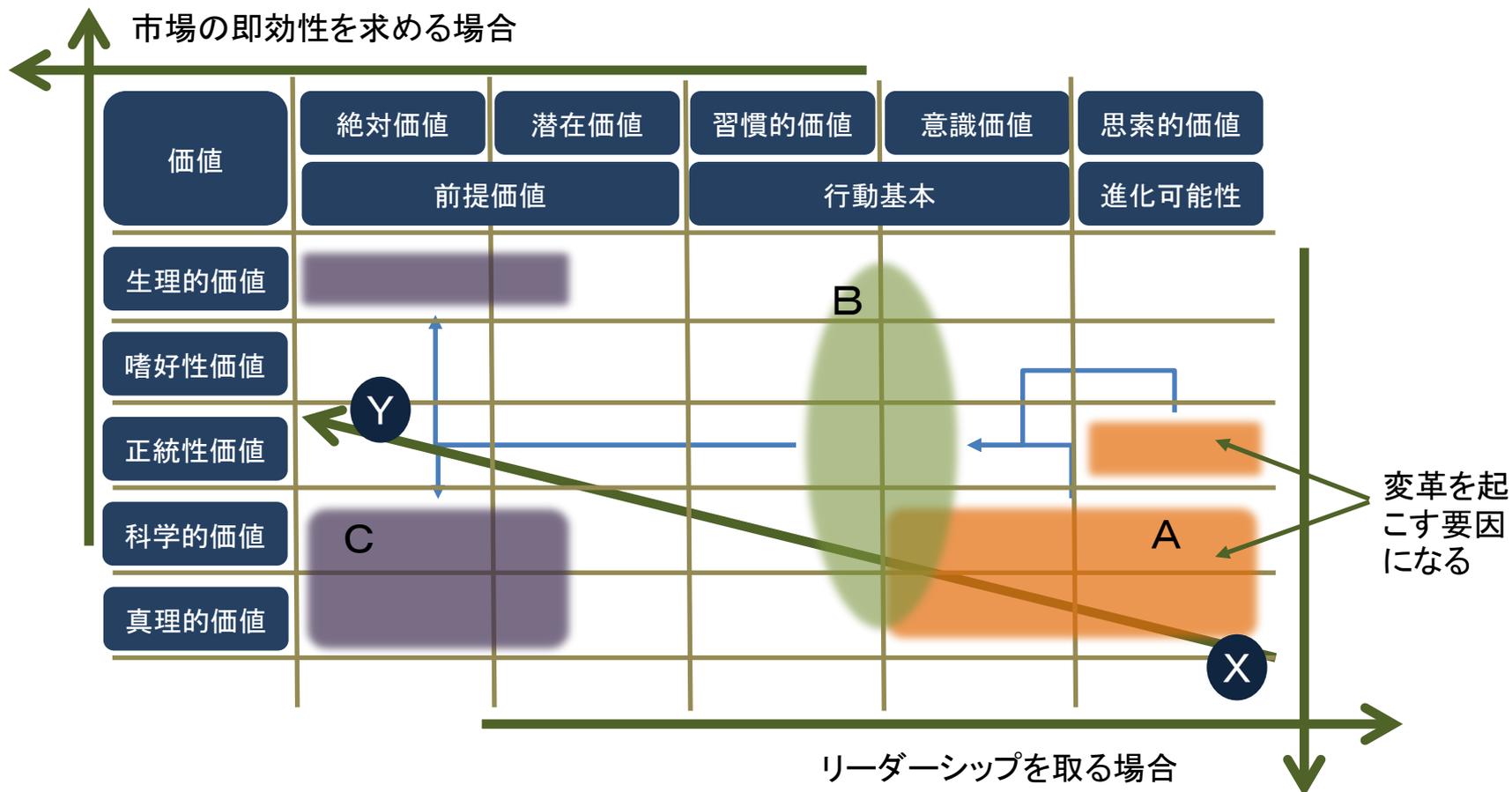
価値が発生する場所

価値は身体的条件と外部条件が絡んで発生する。生活環境の変化に影響される。

意識	無意識	習慣的無意識	習慣的意識	意識	知覚的意識
	意識				
価値	絶対価値	潜在価値	習慣的価値	意識価値	思索的価値
	前提価値		行動基本		進化可能性
生理的価値	生命維持	苦痛排除に向かう	言い伝えなどに関わる	×	×
嗜好性価値	好き嫌い	見える生活水準を基準にする	納得、満足、豪華さ	強制される嗜好是非は別問題	×
正統性価値	制度などの制限で発生する	安全志向	組織習慣、業界習慣の範囲	既存の正統の範囲で改善を図る	正統性の革新に向かう
科学的価値	普遍的とされている論証で成り立っている	検証が試みる	探究・解明されていくに従って現れる		発見・発明に触発される
真理的価値		問い直され続ける			正当とされる新しい価値の可能性

価値を1つの区分で考えてはならない。価値は行動または表現に現れる。

市場性と価値の位置



Aで発生した事柄はBに影響し、Bで発生した事柄はCに影響する。Aの基準で作られたモノは、Cでは売れにくい。Aが売しやすい場所はAの可能性が高い。

価値は物にあるのではない。物が果たす機能にある。価値はXからYに影響していく。

価値が存在する3つの場所



個人、組織、社会の価値が相互に関係し、バランスがとれていなければならない。

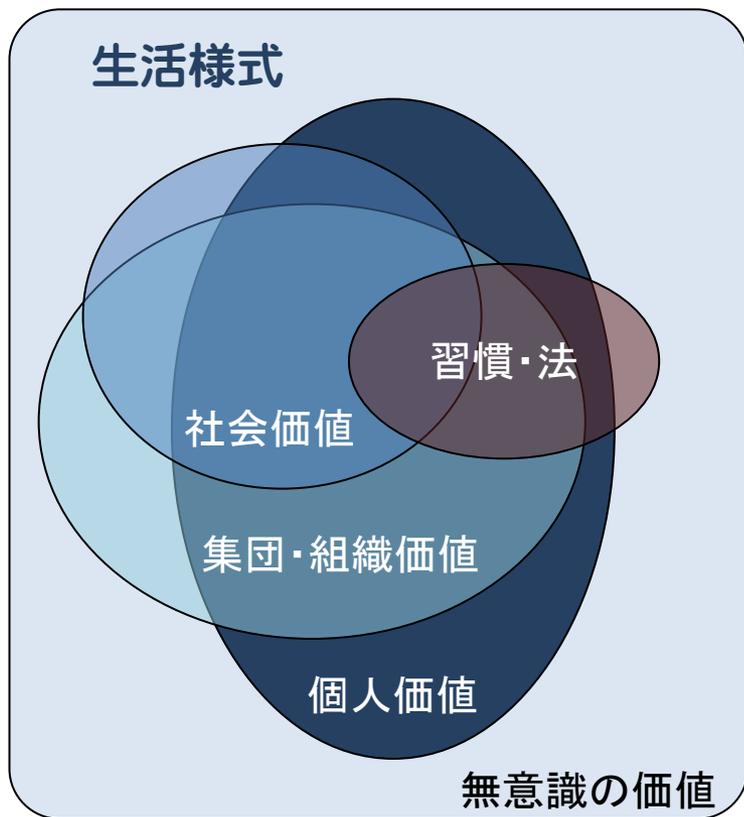
◆個人の価値は、個人が社会にとって有用であり、組織にとって必要とされる。個人にとっての価値は、自己実現に向かって進める要素である。

◆組織の価値は、社会での機能果たし続けることであり、個人を活かせる場となることである。組織だけの価値は存在しない。

◆社会の価値は、人々に平和、自由、平等、安定、発展を提供できることである。そのために様々な機能を必要とする。

教育が発展し、職業の自由が確立されている。そして、人と物と金の移動が自由になった。情報と知識はボーダーレスになった。上図の輪は知識と情報である。

価値の種類



意識では

個人価値 > 集団・組織価値 > 社会価値

社会ルールとしては

社会価値 > 集団・組織価値 > 個人価値

生活様式の変化は、まず個人価値に影響する。

